

平成27年度
こころ医療福祉専門学校
学校自己評価結果報告書

平成28年4月20日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標

<ビジョン>2020年までに長崎県No.1教育機関になる。
<実現に向けたテーマ>思いやりと創造・グローバル化・全てのニーズに応える。
<基本方針>※具体的な方策

1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
3. 社員満足度
4. 留学生の受入れ・海外教育機関との連携

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切: 4、ほぼ適切: 3、 やや不適切: 2、不適切: 1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	・深い専門知識、誠実で気力にあふれ知恵と行動力を持った人材の育成をめざし、国家試験を始めとする専門分野への就職の支援を通じて社会に貢献する理念が明確に定められている。
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	・理学療法士、柔道整復師、鍼灸師、介護福祉士や整体師など、主に人対人の手技施術や介護などの分野において、職業実践専門課程の認定校として、現場実習を始め関係業界との連携を重視した実践的な知識と技術教育を特色としている。
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	・我が国における高齢者人口と割合は今後20年以上にかけて増加し続ける見通しである。その間、医学的治療技術の進歩と、国民全般の健康意識の向上により、専門知識を持った障害予防、回復や介護に携わる人材の需要はさらに高まると見ている。 ・若年者の県外志向による人材不足に対策が必要。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	・本校の理念、目的、育成人材像、特色は、志望段階のガイダンス等、学年ごとの学生保護者面談等で説明は重ねていて、内容についてのクレームはほとんどないが、内容理解の積極的な確認は行っていない。 ・将来構想は学生・保護者に対して直接に周知されているとは言えない。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	・各学科とも、関連業界との連携を重視し、現場実習や研修、業界で現役で活動している非常勤講師の授業等を積極的に導入し、教育課程編成委員会を始めとする会議でカリキュラムの点検や企画を行うと共に、就職先との情報交換や連携活動も頻繁に行うことで、関連業界の動向と将来性を常に注視し、学科運営に反映させている。

①課題

・職業実践専門課程の認定校として、関係業界の動向や将来性には常に注意を払っているが、学校の将来構想の組み立て及び職業教育の指導方針においては、幅広く業界の動向や将来性をさらに注視し、現実的な業界動向にマッチした新しい業態に対応できるような柔軟さを持つ必要がある。
・学校の理念、教育目標等に関する学生、保護者からの特別のクレームはないため、ほぼ理解されていると思われるが、周知に万全を期すこと。

②今後の改善方策

・教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を軸に、さまざまな手段により関連業界との連携をさらに積極的に進めるとともに、幅広く関連する業界の動向と将来性の把握にも努め、より精度の高い将来性の評価能力を開発していく。
・学校の理念、教育目標等について、保護者との直接面談、広報誌、インターネット等による周知の機会を増やすとともに、アンケート等により、理解度を確認する機会を設ける。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	年間を通じた教職員研修会の場で理事長よりの運営方針等が示されている。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	理事長の運営方針を受け、校長を中心として、各教職員が四半期ごとにPDCAサイクルを実施している。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	組織図、各種会議が規程で示され、定期的開催され、議事録を回覧している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	整備されている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	ほぼ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	職業実践専門課程の認可を受け、地域行事への参加など、関係は良好である。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	カリキュラム、時間割、シラバスは学生に配布している。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	OA機器の導入、イントラネットの構築など、業務の効率化は図られている。

①課題

学園グループの拡大に対応した情報システムのさらなる整備。

②今後の改善方策

高速ネットワークを活用し学園グループ内の情報システムの高機能化を促進する。

③特記事項

PDCAサイクルの実施は、平成25年度より実施している。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2 1	心技翔創変の精神を基本に社会のニーズに沿った人材育成を行うことを教育理念として掲げたうえで、各学科の養成施設指定規則に則って策定されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2 1	各学科で、校外実習や就職説明会、就職先訪問を通して対象となる業界団体と積極的に意見交換を行いながら業界のニーズを的確に捉え、それらを基に教育到達レベルを設定している。しかし、今後更に即戦力となる人材育成が望まれることをことを想定し、特に授業時間外での学習時間の確保とその把握を検討していく必要がある。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2 1	各学科の養成施設指定規則に則って「基礎」「専門」といった分野で体系的に学科等のカリキュラムは編成し、かつ学生便覧に明記して学生に配布・説明をしている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2 1	各学科で、臨床実習や集中講義等を通してキャリア教育・実践的な職業教育の工夫・開発を実施しているが、それらの総体的な効果を明確に把握するまでには至っていない。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2 1	各種校外実習を実践的な職業教育として位置付け実施している。また、実習後に活動記録(レポート)の提出を義務付けることで、効果の把握・検討を行っている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2 1	実施方法は明確で計画的に実施されているが、数値のみの評価であるため、その後の具体的フィードバックや改善策が不十分であり、今後の課題である。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2 1	年に2回の教育課程編成委員会内で指摘のあった事項について、各学科で精査しながら改善に取り組んでいる。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2 1	成績評価・単位認定の評価内容については学則に基づき各担当講師の裁量に任されており、進級・卒業の基準については学則(校納金、出席、成績)に加え学科内規をもとに判定している。詳細は、年度初めのオリエンテーション時にクラス毎に学生便覧の配布とともに口頭で説明を行っている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2 1	学科によって、扱う資格の内容は異なっているが、通常授業および補講においては担当分野を割り振り、計画的に各種資格試験に向けて対策を行っている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2 1	各種資格を取得し、その業界のニーズを捉えかつ業界の発展に寄与できる人材育成を全教員が念頭に置いて、学生への関わりを行っている。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2 1	公募以外に、臨床実習関連会議、巡回指導、就職説明会、教育課程編成委員会など関連業界と接触する場面にて、積極的に情報交換を行って連携強化に努めながら、関係各校からの推薦、関連業界からの紹介等により人材を確保している。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2 1	教員の専門性を向上させるために、関連団体の研修会・講習会に参加しているが、その効果を把握、検討するまでには至っていない。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2 1	外部講師を招聘し、校内で定期的に職員研修会を開催している。他の外部研修への参加も、職歴や社歴等考慮してそれぞれに合った内容の研修に積極的に参加している。

①課題

授業内容や教授法について、把握、評価する体制のさらなる充実が必要。

②今後の改善方策

計画的に、相互の授業見学を実施し、教授法の向上に努める。
教職員が参加した学会、セミナー等の伝達講習会を定期的開催し、情報の共有化を図るとともに、教職員の質の向上を図っていきたい。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・就職率の向上が図られているか。	4	3	2	1	就職率よりも退学者数を減らし、就職者数＝卒業者数を増やしていくことが課題としてあるが、これまで実施している会社説明会や各担任による細かな学生対応、新規求人先企業の開拓を引き続き行いながら、学生と企業のニーズのマッチングに努めていながら、積極的に就職率向上を図っている。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	成績不良者が年々増加している現状の中、低学年時から補習強化を行い計画的に各種資格取得率向上を目指しているが、今年度の合格率は全体的に80%前後にとどまった。
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	問題学生への個別対応力強化(保護者との連絡強化、面談回数の増加、学科全体としての対応)、勉強意欲を維持するカリキュラムの見直し、指導法の改善などの対策を講じて、年々退学者数は減少し、本年度は6.5%となっているが、まだ充分ではない。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	専門学校スポーツ交流大会で優勝した個人、クラブの表彰と優勝盾、優勝旗の展示がされているが、ボランティア活動の評価は不足している。また、卒業生の巡回や在校生の面談を行っているが、整備された記録、またそれに基づく公表はなく、活躍及び評価を把握するには不十分である。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	同窓会を組織している学科以外は、卒業後のフォローアップは組織的には整備されておらず、今後構築していかなければならない。卒業研修会を行ってはいるが、新規採用が継続している就職先、自主的に学校訪問する卒業生を通じた情報に頼っている面も大きく、教育活動改善の活用に至るには不十分である。

①課題

- ・成績不良者への対策は行っているが、基礎学力の改善、学習能力の向上の工夫がさらに必要である。
- ・卒業生に対するフォローアップ体制のさらなる整備充実。

②今後の改善方策

- ・定期的な面談、個別指導状況を学科ごとにまとめ、毎月、確保していく。
- ・卒業生の職場訪問を教職員が定期的に行い、情報の共有化を学科間および広報課と諮っていく。
- ・各学科ごとの同窓会や研修会の開催を準備していく。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	求人票の受入れ窓口を各学科に設置し、各学科教員による個別の就職相談、就職先職場訪問、企業による就職相談会(記録)等を頻繁に実施しており、連携した組織的な就職支援体制を取っているが、今後、卒業生からの情報やコネクションを活かした就職支援体制を新たに築いていくことも検討していかなければならない。
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2 1	学生相談に関してまずクラス担任が受け、就職相談に関しては担任主導のもと、学習相談については各学科担当に取次ぎ、校納金相談については学務課に取り次いで対応をとる体制が出来ている。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	入学時の取得資格による減免、高校での課外活動成績による減免、業界関係者からの推薦による減免等の各種減免制度のほか、遠隔地からの転居を余儀なくされる学生への賃貸料補助等の援助がある。校納金の延納・分納の相談に応じる体制がある。日本学生支援機構を始め各種奨学金の手続き支援の体制がある。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2 1	年1回、集団健康診断を実施している(記録)。体調不良者を受け入れる保健室を用意している。看護師の常勤職員がいて、適宜感染症対策を行っている。インフルエンザの集団予防接種を実施している。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2 1	学校教育上の成績と課外活動成績のバランスのとれた向上を促す体制づくりをめざし、認可された課外活動に補助金を支給しており、補助金はユニフォームや練習場使用などに有効に使われているが、さらなる支援体制の充実は求められている。
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2 1	遠隔地からの入学生に対するアパートの斡旋や、費用の一部補助、通学のためのスクールバスの運行を行っている。信頼できるアルバイトの情報提供を積極的に行っている。昼食設備はないが、昼休みの弁当販売業者を複数入れて学生の要望に応じている。
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2 1	入学式直後に各学科が保護者会を実施し、学校・学科の規定、学年歴、時間割等について説明の場を設けており、保護者への学科理解促進に努めている。また、特に成績不良者の面談において、必要に応じて保護者に同席を求めることで、学校と家庭での両面から学生をサポートしていくことを連携の基本姿勢としている。
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2 1	離職した卒業生への再就職支援や情報提供は各学科で柔軟に対応しているが、今後同窓会や卒業教育の充実を学科の枠を超えて図っていかなければならない。卒業生への支援体制を更に強化することが、有益な広報活動の材料になるよう組織的に組み立てていくことが課題である。
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2 1	仕事を持つ社会人のために夜間部クラスを設置し、校内駐車受入れなど優遇措置を取っている。夜間部クラスに合わせたスクールバスも運行している。社会人を対象とした公的補助金の紹介や手続きの対応も行っている。
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2 1	各種資格講習会や高校訪問授業において職業理解や求められる人物像についての啓蒙活動に注力している。また、通信制高校等との連携実績がある。

①課題

- ・課外活動において十分なスペースの確保。
- ・保護者説明会の回数や参加率の向上。
- ・卒業生への支援の全学的な活性化。

②今後の改善方策

- ・課外活動の場として、利便性の高い学外施設の利用を進め、課外活動の幅を広げる。
- ・連絡網の整備や日常的な情報交換の機会を増やし、保護者との連携を高める。
- ・各学科で同門会・同窓会組織を充実させ、卒業生の動向についての情報交換を活発化する。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1	
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。	4 (3) 2 1	法令に従い適切に整備している。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4 (3) 2 1	各学科において、年度初めに可能な範囲で学内外の実習についての計画を整備しており、それぞれに適切な実習施設を確保している。 また、上海での解剖学実習や沖縄でのスキューバダイビング研修など必要応じた教育機関や公的研修施設と連携して適切な研修を実施している。
・防災に対する体制は整備されているか。	4 (3) 2 1	防災設備の点検、危険個所の適宜改善、設備管理業者立ちあいのもと、全生徒による避難訓練の実施など、体制を整備している。

①課題

より高度な教育環境を実現するための施設や設備のさらなる更新。

②今後の改善方策

・施設・設備のメンテナンスなど定期点検をさらに強化し、必要であれば更新する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・学生募集活動は、適性に行われているか。	4	3	2	1	入学対象者や高等学校などに向けて、さまざまな周知活動を実施している。学校案内や募集要項等においても学校の実態を正確に表現し、関係部署での十分な確認を行った上で掲載する内容を吟味している。また、入学希望者の都合や意向を優先し、学校説明会や個別相談などを実施し、その都度内容の改善にも努めている。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	資格取得実績や就職実績などをまとめ、入学希望者の参考となるよう情報を公開している。
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	同分野の他校などの学費と比較して、平均的な学納金設定となっている。

①課題

少子化や高校生の大学進学志向、県外進学志向、就職状況の向上などが顕著に増加していく中で、高校新卒生の確保が難しくなっている。また中途採用の求人状況も向上していることから既卒者社会人の入学希望者も年々減少している状況である。

②今後の改善方策

設置している各学科の業界の魅力や活躍する卒業生の実態などをより広く周知する活動を行い、分野自体の希望者増加に努めていく。また、就職先や関係団体等との結びつきを強め、安定した学校運営を外部にアピールしていく。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2	1	少子高齢化の中、入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに、経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2	1	予算作成に際して、校長査定、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	④	3	2	1	適時、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	③	2	1	公開している。

①課題

今後も進む少子高齢化に伴う入学対象高校生の減少。

②今後の改善方策

高校生や社会人のニーズを捉えた入学対象者の拡大。
学園グループ全体の相互協力体制による多角的事業展開の推進。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法、各種養成施設設置規則等を遵守している。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	個人情報管理規程の整備、文書ロッカーの施錠、使用済名簿のシュレッダー廃棄等実施している。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	毎年、指導に従った自己評価を実施している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果をインターネット上の学校ホームページに公開している。

①課題

学園グループ拡大に伴うネットワーク情報のセキュリティ管理。

②今後の改善方策

専門担当者によるネットワーク情報システム管理をさらに強化し、教職員のセキュリティ教育をさらに推進する。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1		
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 (3) 2 1	近隣住民の災害予防のため、避難施設としての提供、地域住民の自治会行事への積極的参加など実施している。介護福祉士国家試験会場として施設を提供している。	
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4 (3) 2 1	施設や自治会等からのボランティア依頼には積極的に対応し、事案の伝達及び、実施時には教職員が学生引率及び活動支援も行っている。	
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4 (3) 2 1	毎年、一定の職業訓練生を受け入れている。関連する専門資格者による専門家向けの各種研修や、一般向けの公開講座の開催など実施している。	

①課題

・学校の立地や設備の制限のあるなか、最大限の活用に努めているが、さらに社会貢献・地域貢献に努めたい。

②今後の改善方策

・様々な団体との連携により、学内外の施設を利用した社会貢献・地域貢献の機会も増やしていく。

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切:4、ほぼ適切:3、 やや不適切:2、不適切:1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	留学生の卒業後の進路設計も行いながら、より質の高い留学生の確保を目指して戦略を立てて実行している。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	平成28年度より、本校での留学生の本格的な受け入れを開始するに伴い、適切な手続きを行っている。
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	平成28年度に主にアジア系留学生の受入れるため、学生担当の教員および事務責任者を配置し、機能的なクラス編成、組織的な学習指導体制の整備を進めている。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	留学生の卒業後の進路に問題がないように、日本語能力の向上と社会制度の理解に力を入れている。

①課題

社会風習や制度が異なる多様な留学生と日本人の、日本での生活習慣に関する相互理解の促進。

②今後の改善方策

担任や教科の教員に加え、留学生担当の教員を配置し、個別の相談や学習支援を促進する。

本校では、平成28年度から介護福祉科とセラピスト&フィットネス科において、本格的な外国人留学生の受け入れを開始する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な方策

- 1 教育 合格率100%(国家資格・各種民間資格)
就職率100%
- 2 企業や地域との社会連携・社会貢献
- 3 社員満足度
- 4 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携

常に「何のためにを追求」し、「社会が求める人材の育成」に尽力し、「人格の形成」と「社会に貢献」することに努め、「信頼あるプライドのもてる学校づくりを目指す。」という本学園の理念に基づいて、上記具体的な方策を定めた。

1 教育について、

国家試験合格率において各学科とも80%前後にとどまり、100%という目標には及ばなかった。しかし、カリキュラムや指導法の見直しなどが進んでいるため、次年度以降は改善が見込まれる。就職率は、全ての学科で100%を達成する見込みである。

2 企業や地域との社会連携・社会貢献

平成27年度、職業実践専門課程の認可を受けた。「学校関係者評価委員会」及び「教育課程編成委員会」を開催し、両委員会において、企業からの本学園に対する建設的な意見や、現場における貴重な情報を聴取する等、企業との連携がさらに深まった。

地域主催で開催される各種スポーツ大会や高等学校の部活動において、教職員のボランティア活動や実習を兼ねたスポーツトレーナーとしての学生のボランティア活動が高まった。また本校が所在する地域地域を始め、地域住民の行事に積極的に参加すると共に、地域の自治体会議に本校会議室を会場として開放する等、社会貢献はさらに深まった。

3 社員満足度

高い就職状況、地域・高等学校等へのボランティア活動等を通して、本校活動に対する地域の方々の理解と支援を実感している。そのため、地域に貢献できるプロフェッショナルを育成するという教育活動にプライドを持って従事できている。

4 留学生の受け入れ・海外教育機関との連携

平成28年度より、本校に東南アジア・南アジアからの留学生を受け入れ、就職・進学支援を行うことになり、受け入れ体制を整備した。

1. 学校の教育目標 平成28年度

- <ビジョン>2020年までに長崎県No.1教育機関になる。
<実現に向けたテーマ>思いやりと創造・グローバル化・全てのニーズに応える。
<基本方針>※具体的な方策
1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
 2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
 3. 社員満足度
 4. 留学生の受入れ・海外教育機関との連携

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 教育 合格率100%(国家資格・資格試験)
就職率100%
退学率の低減(学生数の6%以下)
2. 企業や地域との社会連携・社会貢献
3. 教育を通じた国際貢献 …… 留学生の入学受入れ